
君を、ただ

北川瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君を、ただ

【Nコード】

N0043M

【作者名】

北川瑞稀

【あらすじ】

守るため。そう言った彼に、彼女は――。

◆サイトからの再掲載です

「シロちゃん！ただいまー！」

「…シロちゃん言うな」

「あたしと同じ学校とこに入れたら名字で呼んであげるって言ったでしよ」

「バカ桃。誰があんなとこ入るかよ」

———いつかの、会話。君はもう忘れてしまったのだろうか。
何故君が、ここにいるの？

「…シロちゃん…？」

額に皺を寄せた仏頂面も、可愛げのないしゃべり方も、全部——
彼の、特徴。

見えたものが信じられない。なぜ、彼がここにいるのか。

「その呼び方やめろ。ここに入れたら、名字で呼ぶって言っただろ」

その言葉にやっと、目の前にいる人が本当に彼なのだと、彼女の頭が認識した。

だけどもまだに、ぐるぐるぐるぐる。頭が混乱していた。だって

彼は、死神が大嫌いで、絶対に真央霊術院なんて入らないって、言ってたではないか。

「…なんで、ここに居るの？」

震える声で、やっとのことそう言った。

真央霊術院に入れたら名字で呼んであげる、なんて言ったけれど、できればここには入ってほしくなかった。おばあちゃんと、彼と。守りたいからこの学校に入ったのだ。おばあちゃんや彼が傷ついているところを見たくない。だから死神になろうと思ったのだ。あんなことを言っても、彼がここに入るとは思わなかった。

もともと霊力を持っていたのは知っていた。自分と同じで、彼も食料を食べなければ生きて生きなかつたから。霊力をもつ魂魄は、普通の魂魄と違い腹が減る。

しかもそれは自分よりも強いのだろう、ということも薄々感づいてはいた。彼は自分よりも小さいくせに、食べる量は半端なかつたからだ。

「…なんで、シロちゃんが…」

彼は答えない。ただ、まっすぐな目で前を見ていた。

しばらくして、ようやく彼がぽつりとつぶやいた。

「…守るため、かな」

その声は小さくて、しかもその後すぐに彼はその場から去ってしまっただので、何を？と問うことはできなかった。

———守るため。

それは自分が死神になると決めたのと、同じ理由。

彼は何を守ろうと、心に決めたのだろうか。

おばあちゃんかな？シロちゃん友達少なかったし…と、薄ぼんやり考えた。

目を閉じ、胸で手をぎゅっと握りしめる。

自分が彼を守りたいと思ったように、彼が守りたいと思った人の中に、自分がいてほしい。そう、思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0043m/>

君を、ただ

2011年10月6日08時15分発行